



<市町村探訪>

地域資源を活用した「協働によるカレーのまちづくり」
(土浦市)

1 はじめに

土浦市は、古くは霞ヶ浦や利根川の水運を活かした江戸への物資の集散地として栄える一方、江戸と水戸を結ぶ水戸街道が整備され、城下町・宿場町として多くの人々が往来しました。

その後、高度経済成長期を経て、茨城県南の中核都市として発展してきましたが、現在の中心市街地を取り巻く環境は、モータリゼーションの進展や大型商業施設の郊外立地等によって大きく変化しており、まちなかの活性化や賑わいづくりが大きな課題となっています。

2 カレーのまちの由来

本市には、昭和4年(1929年)、ドイツの大型飛行船ツェッペリン伯号が世界一周の途中、霞ヶ浦湖畔に飛来した際、地元(右粕)産のジャガイモを使ったカレーを乗組員に振る舞って歓迎したという歴史があります。

また、当時は海軍予科練の街として栄えましたが、海軍では、航海に出ると海の上で曜日の感覚がなくなるため、毎週金曜日にカレーを食べるという習慣がありました。

その他、山本五十六元帥が、市内の神龍寺に下宿をしていた際、真夏に激辛カレーを食べて暑気払いをしたという逸話も残されているなど、本市とカレーとは、歴史的に深い結びつきがありました。

3 カレーによるまちづくり

このようなことから、本市特有の歴史や食文化を活かした食によるまちづくりを通じて、中心市街地に活気と賑わいを取り戻そうという取り組みが始まり、平成16年には、市民・事業者・関係団体等により「食のまちづくり検討委員会」が組織されました。

そして、平成17年には、愛知万博PRのため再び飛来することとなったツェッペリン号の歓迎式典でゆかりのカレーを再現するため、土浦商工会議所女性会が工夫を重ねてツェッペリンカレーを蘇らせ、歓迎式典当日にあわせて第1回のカレーフェスティバルが開催されました。

平成18年には、カレー界のカリスマであるパク森店主の森幸男氏を講師に招き、日本一の生産量を誇るレンコンを活用したオリジナルカレーを考案し、味や香り、創造性に優れたメニューに対して講師が認定をする「つちうらカレー物語」がスタートしました。



カレー研究会



ツェッペリンカレー



今年、パフェやアイスクリームが認定を受けるなど、カレー専門店によるカレーライスだけでなく、焼き菓子・串焼き・ラーメンなど21店舗45メニューが認定を受け、まちなかで食べ歩きができるようにカレーマップを作成して、多くの方に食べ歩きを楽しんでいただいています。

また、年1回開催されるカレーフェスティバルでは、昨年「つちうらカレー物語」認定店ナンバー1を決定するC-1（カレーナンバー1）グランプリが話題を集め、来場者が約3万人を数える大規模なイベントとなりました。

今年、カレーフェスティバル当日、市民と行政が協働でカレーによるまちづくりに取り組む5都市（横浜市、横須賀市、郡上市、鳥取市、土浦市）によるカレー5大都市カレーサミットを開催し、各都市の取り組みの発表や意見交換を行うなど、カレーによるまちづくりの取り組みを全国に発信したところです。

なお、70数年の時を経て復活を遂げたツェッペリンカレーは、よこすかカレーフェスティバルをはじめ、県内外のイベント等にも積極的に出展してPRを行うとともに、レトルトパックを販売するなど、新しい土産品・贈答品としても親しまれています。

4 これからの取り組み

今後は、本市の地域資源を活用したカレーによるまちづくりの取り組みを、地元商店街の賑わいづくりや活性化に繋げるため、「つちうらカレー物語」の参加事業者を中心に、オリジナルカレーの研究開発や更なるレベルアップを図っていきたいと思います。

また、カレーフェスティバルでは、飲食事業者のほか、主婦・市民団体・高校生等も参加して「カレーのまち」を盛り上げていただいています。これからも、より多くの方に参画いただきながらまちづくりの機運醸成を図るとともに、食を活用してまちなかの回遊性を高めることで、中心市街地商店街の活性化を図っていきたいと考えています。

【問い合わせ先】

土浦市産業部商工観光課中心市街地対策室

Tel 029-826-1111 (内線7602)

Email shoukou@city.tsuchiura.lg.jp



土浦C-1グランプリ



ツェッペリンカレー
レトルトパック



カレー食べ歩きマップ